

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音(Aユニット)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2019_022_kani=true&lievosvoCd=2294200759-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して12年になりますが、一番に心がけている事は入居者様の健康と安全です。その上で入居者様がくつろげて生活できているか、楽しいと日々感じて頂けているかに心を向けて接しています。アピールポイントは、毎日の体操とレクです。全体活動と個別の活動で、成果も見られ認定調査時やご家族にも評価されています。また、入居者様にも制作に参加して頂き、季節ごと作り替える、室内装飾・ドア飾りも高評価を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日午前中にラジオ体操やリハビリ体操、転倒予防体操、口腔体操など身体機能維持のための運動カリキュラムとレクリエーションを取入れ、午後は個別でイージーウォーク、脳トレ、踏み台昇降など意気揚々と取り組み、その姿は壮健そのものです。開設以来従事する職員が7割という定着率の中、勤務シフトによる業務の不公平感を解消するために全体会議でそれぞれの困りごとを出して解決方法を探り、お互いを思いやる円滑なチームケアが醸成されるとともに、18名分の情報が一目瞭然となった申し送りシートや、職員全員が輪番で受け持つモニタリング等、ケアの標準化にも優れた仕組みがある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、ミーティング時に職員一同で声出し唱和の実践をして確認をしています。年度末に職員を交えた見直しの機会を設けています。	「利用者の人格を尊重し～安心・安全・快適で活力ある生活を～」を理念に掲げ、ミーティングの都度、外れた言動がなかったか振り返っています。開設当初より勤務する職員が7割という定着率で、理念の浸透もゆるぎないものがありますが、機を見て気持ちを引き締めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板や運営推進会議の連絡、防災訓練等でのつながり。公道のお掃除をして通る方とあいさつをしている。	コロナ禍で実際の集まりはありませんが、地域防災訓練の折には毎回町内会長や組長から確認の声をかけてもらっています。感染者数が落ち着いた時期に運営推進会議を通常開催し、事業所の取組みを知ってもらうとともに、介護相談を受ける機会にもなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのヒヤリハットの具体例等で、認知症の理解が得られたり相談をされることが増えてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの影響で、参加自粛が多く資料配布のみの事がありました。開催時には意見交換が来ています。	開催時は町内会長、民生委員、家族代表、訪問マッサージ事業所、市介護保険課、地域包括支援センターが出席し、入居者状況や活動報告、ひやり・はっと、事故報告をおこない、コロナ禍における面会方法や行事開催について等、質問に応じています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは書類の提出が、メールや郵送になり、直接会う事が少なくなったが、電話での質問や助言を頂く事はある。生活支援課とは頻りに連絡をとっている。	運営推進会議が開催できない場合には書面開催として市介護保険課へファクス送信し、新型コロナ対策や、ひやり・はっと～事故への原因究明と対策強化の旨を添えています。制約がある中でも楽しみのある活動への評価が得られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を年4回開催。全体会議、運営推進会議での発表、研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会では、歩行できない事が分からずに歩こうとしてしまう人や、トイレの順番待ちが我慢できず車イスから立ち上がってしまう人に対して安易に制止せず、本人の気持ちを受け止めながら、どのような声かけ、対応が適切かを話合って職員間で共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて、間違いのないよう学び、「虐待、言葉の暴力」防止の徹底に努め、対応の方法を話し合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を受け、制度を学んでいます。成年後見人の利用者もいますので支援できていると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より丁寧な説明に努め、契約前に不安や疑問点、質問を伺うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナでご家族に直接会う機会が減っていますが、電話での報告や郵便物で報告をしています。運営推進会議や来所時の意見、要望も運営に反映しています。	遠方の場合を除き、1~2ヶ月ごと請求書の受取りに来所してもらい、その都度個人記録を提示しながら食事摂取量、バイタルや睡眠、日中活動の様子を知らせ、サインをもらうとともに、意見や要望を聴取して運営や介護計画に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を毎月開催し、職員の意見を聞いている。個別の面談も適宜行っている。	勤務シフトによる業務の不公平感を解消するために、全体会議でそれぞれの困りごとを出して解決方法を考え合い、円滑なチームケアが醸成されています。月刊誌からヒントを得たレクや作品づくりなど、自ら新しい情報を取り入れて実践する気風があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に勤務状況を把握しており、職員間の評価も評価表を用い個々の情報を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネット配信研修の受講と外部研修の機会を設け、多くの参加が出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、圏域研修への参加、系列法人間での交流を企画するが、コロナ禍で実現できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時には何度か面談し、安心して相談事を話して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時にじっくりと話を聞き、家族の方の不安を取り除くよう努めています。要望も出来る限り対応し、サービス計画に反映し職員と共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に良く話を伺い、必要としている支援に気づき対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護してやる」と言うような態度にならないよう職員に指導し、一方的な立場にならないように努めています。出来ることは、一緒に行い感謝の言葉を伝える様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密にとり、ご本人共に支え合っているという気持ちを共有するよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出も規制されていますが、ご家族、友人とお電話で交流を継続できるよう支援しています。	面会は玄関ホールのドアを開放してアクリル板越しで15分以内としています。家族や職員が用意した時代小説やエッセイなど、好きな本をフロアでじっくり読む人が複数名おり、読み終えた本は職員の仲介で貸し借りがおこなわれ、安寧の時間が流れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほぼ全員が日中をフロアで過ごし、おしゃべりしたり、ぬり絵を一緒にしたり、関わり合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員がモニタリング担当する事で、本人との会話をする時間を作り、状況を把握するようになり、本人本位の立場になって希望に添うよう考えるようになりました。	あえて担当を決めず、ローテーション表を作り輪番で3ヶ月ごとのモニタリングを実施しています。介護計画のニーズや援助目標を把握した聞き取りにより、モニタリング表(サービス提供状況報告書)には、多面的な気づきが記載されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会がある毎に、ご家族との会話から本人に関する情報を多角的に集め把握するよう努めている。得た情報は職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察、一日の生活を記録し変化があれば情報共有し、個人の能力や残存機能をモニタリングで観察し、送りやカンファレンスで職員が一人一人把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員全員で行い、日々の様子や以前との変化に合ったケアをし、カンファレンスを行い共通したケアを実践、計画作成しています。	職員が記載したモニタリング表をもとにカンファレンスで協議し、計画作成担当者が介護計画を作成しています。請求書の受取りに家族が訪問する機会をサービス担当者会議として活用し、モニタリングを提示しながら話し合いをおこなって、本人を支えるチームケアが成り立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を書くことで観察力を養い、送りで情報共有し、日々の変化を見落とさず、実践や介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスでなく、個々の生活歴や家族の意向に出来る限り合わせた個別対応をするように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	圏域包括と情報交換に努め、活用できる地域資源の把握に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの継続受診の方には体調の変化や毎日の気付きを記入したものを受診時に渡し、適切な医療を受けられるように支援しています。契約医師、薬剤師とは、日常的に体調変化の報告相談の連携をとっています。	かかりつけ医を継続する3名は「受診用近況報告書」を携えて家族と受診し、結果を家族(または医師)に記載してもらって確実な情報共有とされています。月に1度訪問診療をおこなう協力医の他、終末期には24時間365日連絡可能な訪問診療に切替えて医療体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3~4日の看護師職員勤務と 週1回の訪問看護師のサービスで 日々の様子を報告し、医療的アドバイス、指示を受け利用者様に反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方と病院関係者と面談し情報の共有を図り、納得できる様、話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の日々の様子と、ご家族の希望に添える様に話し合い、最善なケアが出来る様、職員同士で協力しています。	契約時には「重度化対応・終末期ケア対応指針」の書面をもって事業所でできること、できないことを説明し、この2年で2名を見送っています。医師をはじめ、訪問看護師、薬剤師、訪問マッサージ師との連携の下、看取り介護計画書に基づいたきめ細やかなケアがおこなわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変・事故発生時の対応について研修と訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練以外に、外気浴で庭に出る機会を「避難訓練で」と声掛けし日常的に慌てず避難できる習慣づけをしています。避難方法と避難場所、「非常用災害ダイヤル」をご家族に提示しています。	日中・夜間想定を含めて年2回の法定訓練を実施しています。商業施設が立ち並ぶ立地で、夜間における協力体制が得にくいいため、発災時は近隣から通う職員が駆けつけることとしています。浸水深ランクは低いものの水害のリスクが予想され、その避難先が課題となっています。	水害時の対応や避難先について早期解決が図られることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄介助での気配りや、他利用者への目線にも配慮する事を心掛けています。	男性職員を拒む女性には同性職員が対応し、排泄に誘う時は周囲に聞こえないように等、羞恥心に配慮しています。また、申し送りはフロアの奥やキッチン内で「小声で」とし、申し送り表には「絵や写真を使うと伝わりやすい」などコミュニケーション方法への留意点も記載されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けにならないよう、本人の希望を丁寧に聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態、趣味を考慮してのレクの提案。本人のペースで休息、読書、器具リハなどしたり、希望を聞いて過ごして頂いている。したく無い事は、健康被害につながる事以外は無理にさせない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの準備はご本人に決めて頂たくか提案をさせていただき本人希望や季節、気温に合った身だしなみを一緒に考え決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎して提供する副菜を使用しているが、味噌汁は野菜たっぷりに職員が調理している。イベント時は利用者の好みを聞いて提供し、毎月食レクとして参加型調理をしている。日常的には後片付け・食器洗いをしている。	利用者からのリクエストもあり、参加型調理ではカレーやシチューが好評です。食器洗いは男性利用者も加わり、当番表に従って勤しむ姿があります。誕生日はちらし寿司や三食弁当、イベント食には節分の鬼オムレツや夏場の冷やし中華など、季節を感じるメニューを取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々の健康状態に応じて盛り方や量を支えています、水分量は1300cc以上を目標に回数を多くしたり、声かけをし、なるべく多く摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをなるべく、ご自分で行って頂き、出来ない方には職員が介助して口腔ケアを行い、清潔保持が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、自分で行けない方、2時間以上行っていない方には声掛け誘導し、失禁の多い方は失禁前に誘導できるよう個別対応します。車椅子の方には、2人対応の事もあり見守りながら排泄の支援をしています。	トイレ誘導に拒否があり、1時間半以上あけると必ず失敗してしまう人には早めの声かけとともに言葉を選んで誘っています。また、怪我等で歩行困難になり一時的にリハビリパンツに頼ることになった場合でも、回復の頃合いを見て以前の状態に戻れるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、水、牛乳などを飲んで頂き、ココアと飲むヨーグルトや乳酸菌飲料を提供している。朝食後のトイレ誘導と、体操に腸活体操を取入れている。排便記録をつけ、服薬のコントロールも細かく対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回設定しているが変更可能で、入浴日は職員と一緒に着る服を選んだり、自分で用意出来る方は自分で行き、入浴時は1対1なので本人から色々話をして下さる事が、コミュニケーションがとれています。	午前中は活動の時間として、ゆったり入れる午後を入浴時間にあてています。入浴剤を複数用意し、入浴後の保湿ケアも欠かしていません。「今日私は何番目？」と楽しみにする人もあれば、お風呂と言わず「薬を塗るので…」と声かけすることでスムーズに入浴できる人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が習慣の方は夜が不眠にならないよう時間を決めて起こしますが、入眠はテレビを見て遅めの方もいます。パジャマは3日毎寝具は9日毎に洗濯して気持ち良く眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法容量と説明の服薬管理票を作成し、カンファレンス時や処方が変わった時などに薬の説明をしている。夜勤時の薬のセット時、薬の確認や目的、用法などの理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、掃除、洗濯物干し・取込み、花の世話、メモ作り、買い出し同行などやりたい家事の手伝い。選べるコーヒータイム。運動、体操、色塗り、脳トレ、歌等のレク。食レクへの参加。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月毎にお楽しみ会を企画し、お出かけや、散歩など外出支援に努めていたが、コロナで外出ができていない。天候が良い日は中庭で体操や歌を唄い、買い出しに同行する方もいます。	コロナ禍で思うような外出はできませんが、暖かい日を見計らって中庭でお茶を飲んだり、花壇の手入れをおこなったりして気分転換を図っています。感染者数が落ち着いた時期には近隣のスーパーまで、貸出許可をもらっているカートを押しながら買い物に出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使用する事が無く、トラブルになるので、個人でお金は持っていません。必要な物品がある時には利用者、家族に相談して、立替で購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出があれば、家族や本人の考えを尊重して、やり取りが出来る様になっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的なところは毎日清掃で、清潔に保つよう努めている。レク担当職員と利用者様の共同で壁飾り等を作成し、四季折々に掲示を替え、楽しい空間作りをしています。	桃の節句には玄関でお雛様が出迎え、毎月のレク担当が壁面や天井飾りを創作し、ユニット内を季節色豊かに演出しています。共用空間の床、トイレは毎日2回、テーブルや椅子、キッチン周り、洗面台は夜勤が薬剤で拭き上げをおこなって感染対策に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のフロア-は明るい雰囲気作りに努めています。定位置以外にもくつろいで話ができるスペースも確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険と思われる物以外は、家族や本人の意思を尊重して過ごしやすい様になっています。	家族の写真や愛用の置き時計、仏壇等の持ち込みがあり、2.5畳相当のロフトが設置され、季節外れの衣類や布団の収納が可能です。備え付けの介護用ベッドは、マットとの隙間を埋めて寒さ対策をはかるなど、こまやかな心遣いがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力が異なる状況の中で、それぞれの能力を理解し、安全面に注意しながら、各個人出来る事は行って頂く。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音(Bユニット)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JiyosyoCd=2294200759-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して12年になりますが、一番に心がけている事は入居者様の健康と安全です。その上で入居者様がくつろげて生活できているか、楽しいと日々感じて頂けているかに心を向けて接しています。アピールポイントは、毎日の体操とレクです。全体活動と個別の活動で、成果も見られ認定調査時やご家族にも評価されています。また、入居者様にも制作に参加して頂き、季節ごと作り替える、室内装飾・ドア飾りも高評価を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日午前中にラジオ体操やリハビリ体操、転倒予防体操、口腔体操など身体機能維持のための運動カリキュラムとレクリエーションを取入れ、午後は個別でイージーウォーク、脳トレ、踏み台昇降など意気揚々と取り組み、その姿は壮健そのものです。開設以来従事する職員が7割という定着率の中、勤務シフトによる業務の不公平感を解消するために全体会議でそれぞれの困りごとを出して解決方法を探り、お互いを思いやる円滑なチームケアが醸成されるとともに、18名分の情報が一目瞭然となった申し送りシートや、職員全員が輪番で受け持つモニタリング等、ケアの標準化にも優れた仕組みがある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、ミーティング時に職員一同で声出し唱和の実践をして確認をしています。年度末に職員を交えた見直しの機会を設けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や運営推進会議の連絡、防災訓練等でのつながり。公道のお掃除をして通る方とあいさつをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのヒヤリハットの具体例等で、認知症の理解が得られたり相談をされることが増えてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの影響で、参加自粛が多く資料配布のみの事がありましたが、開催時には意見交換が来ています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは書類の提出が、メールや郵送になり、直接会う事が少なくなったが、電話での質問や助言を頂く事はある。生活支援課とは頻りに連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を年4回開催。全体会議、運営推進会議での発表、研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて、間違いのないよう学び、「虐待、言葉の暴力」防止の徹底に努め、対応の方法を話し合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を受け、制度を学んでいます。成年後見人の利用者もいますので支援できていると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より丁寧な説明に努め、契約前に不安や疑問点、質問を伺うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナでご家族に直接会う機会が減っていますが、電話での報告や郵便物で報告をしています。運営推進会議や来所時の意見、要望も運営に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を毎月開催し、職員の意見を聞いている。個別の面談も適宜行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に勤務状況を把握しており、職員間の評価も評価表を用い個々の情報を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネット配信研修の受講と外部研修の機会を設け、多くの参加が出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、圏域研修への参加、系列法人間での交流を企画するが、コロナ禍で実現できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時には何度か面談し、安心して相談事を話して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時にじっくりと話を聞き、家族の方の不安を取り除くよう努めています。要望も出来る限り対応し、サービス計画に反映し職員と共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に良く話を伺い、必要としている支援に気付き対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護してやる」と言うような態度にならないよう職員に指導し、一方的な立場にならないように努めています。出来ることは、一緒に行い感謝の言葉を伝える様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密にとり、ご本人共に支え合っているという気持ちを共有するよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出も規制されていますが、ご家族、友人とお電話で交流を継続できるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほぼ全員が日中をフロアで過ごし、おしゃべりしたり、ぬり絵を一緒にしたり、関わり合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員がモニタリング担当する事で、本人との会話をする時間を作り、状況を把握するようになり、本人本位の立場になって希望に添うよう考えるようになりました。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会がある毎に、ご家族との会話から本人に関する情報を多角的に集め把握するよう努めている。得た情報は職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察、一日の生活を記録し変化があれば情報共有し、個人の能力や残存機能をモニタリングで観察し、申送りやカンファレンスで職員が一人一人把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員全員で行い、日々の様子や以前との変化に合ったケアをし、カンファレンスを行い共通したケアを実践、計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を書くことで観察力を養い、申送りで情報共有し、日々の変化を見落とさず、実践や介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスでなく、個々の生活歴や家族の意向に出来る限り合わせた個別対応をするように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	圏域包括と情報交換に努め、活用できる地域資源の把握に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの継続受診の方には体調の変化や毎日の気付きを記入したものを受診時に渡し、適切な医療を受けられるように支援しています。契約医師、薬剤師とは、日常的に体調変化の報告相談の連携をとっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3～4日の看護師職員勤務と 週1回の訪問看護師のサービスで 日々の様子を報告し、医療的アドバイス、指示を受け利用者様に反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方と病院関係者と面談し情報の共有を図り、納得できる様、話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の日々の様子と、ご家族の希望に添える様に話し合い、最善なケアが出来る様、職員同士で協力しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変・事故発生時の対応について研修と訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練以外に、外気浴で庭に出る機会を「避難訓練で」と声掛けし日常的に慌てず避難できる習慣づけをしています。避難方法と避難場所、「非常用災害ダイヤル」をご家族に提示しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄介助での気配りや、他利用者への目線にも配慮する事を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けにならないよう、本人の希望を丁寧に聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態、趣味を考慮してのレクの提案。本人のペースで休息、読書、器具リハなどしたり、希望を聞いて過ごして頂いている。したく無い事は、健康被害につながる事以外は無理にさせない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの準備はご本人に決めて頂るか提案をさせていただき本人希望や季節、気温に合った身だしなみを一緒に考え決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎して提供する副菜を使用しているが、味噌汁は野菜たっぷりに職員が調理している。イベント時は利用者の好みを聞いて提供し、毎月食レクとして参加型調理をしている。日常的には後片付け・食器洗いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々の健康状態に応じて盛り方や量を支えています、水分量は1300cc以上を目標に回数も多くしたり、声かけをし、なるべく多く摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをなるべく、ご自分で行って頂き、出来ない方には職員が介助して口腔ケアを行い、清潔保持が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、自分で行けない方、2時間以上行っていない方には声掛け誘導し、失禁の多い方は失禁前に誘導できるよう個別対応します。車椅子の方には、2人対応の事もあり見守りながら排泄の支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、水、牛乳などを飲んで頂き、ココアと飲むヨーグルトや乳酸菌飲料を提供している。朝食後のトイレ誘導と、体操に腸活体操を取入れている。排便記録をつけ、服薬のコントロールも細かく対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回設定しているが変更可能で、入浴日は職員と一緒に着る服を選んだり、自分で用意出来る方は自分で行き、入浴時は1対1なので本人から色々話を下さる事があり、コミュニケーションがとれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が習慣の方は夜が不眠にならないよう時間を決めて起こしますが、入眠はテレビを見て遅めの方もいます。パジャマは3日毎寝具は9日毎に洗濯して気持ち良く眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法容量と説明の服薬管理票を作成し、カンファレンス時や処方が変わった時などに薬の説明をしている。夜勤時の薬のセット時、薬の確認や目的、用法などの理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、掃除、洗濯物干し・取込み、花の世話、メモ作り、買い出し同行などやりたい家事の手伝い。選べるコーヒータイム。運動、体操、色塗り、脳トレ、歌等のレク。食レクへの参加。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月毎にお楽しみ会を企画し、お出かけや、散歩など外出支援に努めていたが、コロナで外出ができていない。天候が良い日は中庭で体操や歌を唄い。買い出しに同行する方もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使用する事が無く、トラブルになるので、個人でお金は持っていません。必要な物品がある時には利用者、家族に相談して、立替で購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出が有れば、家族や本人の考えを尊重して、やり取りが出来る様になっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的なところは毎日清掃で、清潔に保つよう努めている。レク担当職員と利用者様の共同で壁飾り等を作成し、四季折々に掲示を替え、楽しい空間作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のフロア-は明るい雰囲気作りに努めています。定位置以外にもくつろいで話ができるスペースも確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険と思われる物以外は、家族や本人の意思を尊重して過ごしやすい様になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力が異なる状況の中で、それぞれの能力を理解し、安全面に注意しながら、各個人出来る事は行って頂く。		